

あそぼう

人と人、
人と社会をつなぐ

vol.
117

令和6年11月1日発行

育成会ノート



いえしまで
自然体験をしました



子ども会の皆さまへ
このノートは

目次

- P2▶「兵庫県子ども会育成者大会」
- P3▶いえしまで自然を体験しよう!
- P4▶子どもの手による子ども会づくり
- P5▶「兵庫県立人と自然の博物館」情報
- P6~7▶兵庫県立図書館 50周年記念記事
- P8▶兵庫県子ども会連合会 情報配信中!



かならず読んでください



日常活動で活かしてください



ファイルに残してください



各戸回覧してください



発行 一般社団法人兵庫県子ども会連合会

神戸市中央区坂口通2-1-1 兵庫県福祉センター6階

TEL:078-221-4081 E-mail:hyogo@kodomo-kai.or.jp

<https://www.kodomo-kai.or.jp/hyogo/>



こども
まんなか

参加費無料

どなたでもお気軽に
お申込みください♪

兵庫県子ども会育成者大会

子ども会SNSサミット

みんなで
子ども達の声を
一緒に聴こう！



「兵庫県
サイバーキッズの
お約束」を作るよ！



スマホの
良いところ、
悪いところは？



【第一部】

SNSの現状やトラブル対策をテーマとした
各地域代表の子どもたちによるワークショップ
「子ども会SNSサミット」を実施

【第二部】

永年子ども会活動を通じて様々な功績がある
個人や団体の皆様への表彰式



コーディネーター
花田 経子 さん

岐阜県各務原市出身。子どもや保護者・高齢者などの情報弱者に対する情報セキュリティ教育の教材開発などが研究対象であり、中学生の一児の母として、教育者としてSNSなどの利用について提言を行なっている。

11.9 Sat

12:30-15:30

会場

神戸クリスタルホール
(JR神戸駅より徒歩5分)

詳細は

兵庫県子ども会連合会



で検索

TEL 078-221-4081



お申し込みは
こちらより

主催：一般社団法人兵庫県子ども会連合会

後援：兵庫県 兵庫県教育委員会 公益財団法人兵庫県青少年本部

社会福祉法人兵庫県社会福祉協議会 公益社団法人全国子ども会連合会

協力：兵庫県警察本部

この事業は（公財）兵庫県青少年本部「ひょうこ子ども・若者応援団」の助成を受けて実施しています。

National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」

体験の風を
おこそう

いえしまで 自然を体験しよう！

10月5日(土)～6日(日)、
兵庫県立いえしま自然体験センターにて
1泊2日のキャンプを実施しました。



小学5・6年生の子どもたち20名と、
ボランティア8名(大学生6名、社会人

2名)が参加し、海辺での自然とのふれあいや、キャンプゲームを体験しました。

学校とは違い、班の仲間はほとんどが初めて会う子ばかり。友だちになれるかな、と不安な
気持ちで参加した子どもたちも、活動を通してすぐに打ち解け合う姿に、たくましさを感じました。

なんでも全力投球で取り組む子、周りの様子をうかがってからゆっくりと輪に加わる子、すぐ
に飽きて他のことに気持ちが移ってしまう子…いろんな個性が寄り集まって、賑やかな2日間
でしたが、何より大きな事故やケガもなく、安全に過ごせたことは、お世話になったセンターの
皆さんのおかげなのは勿論、子どもたち一人ひとりの「力」に他なりません。

未来を担う子どもたちが、心身ともに健やかに成長するために、自然に慣れ親しむ活動は
とても大切な体験です。私たちはこれからもこうした体験の機会を支援していきます。

重い荷物を背負って
いざ会場へ！



地引網体験 みんなで力を合わせて！



サビキ釣り体験 釣れるかな

色紙交換
思い出がたくさんできたね



みんなで一緒にいただきまーす！



キャンプゲーム体験



2日間お疲れ様！楽しかったね



カヌー・カヤック体験
ちゃんと前に進んでる？



子どもの手による子ども会づくり

兵庫県子ども会連合会では「子どもの手による子ども会づくり」の実現に向け、単位子ども会で実施している【子どもが主体となって】具体的に取り組もうとする活動に助成を行っています。

令和6年度は県下で57単位子ども会が「子どもの手による子ども会づくり」の助成を受けて活動しています。

中播磨ブロック

市川町〔保喜子ども会〕 おもてなし喫茶 夏祭り(7/20) 55名

世代間・地域間交流 (保喜区公民館)

日頃お世話になっている老人会の方々に、感謝を込めておもてなしをしないと、子どもたちが料理を作ったり、縁日のお店番をするなどおもてなしをしコミュニケーションを深めた。老人会の方々に大好評だったことが子どもたちにとって何よりの収穫だったと思う。低学年が、高学年の真似をして自ら動いているのを見て、成長を感じることができた。



西播磨ブロック

宍粟市〔杉田子ども会〕 山登りと屋外クッキング(6/16)22名

自然体験、非行防止、リーダー養成、世代間・地域間交流 (自治会内山林・キャンプ場)

準備では、子どもたちが話し合って買い物をしたが、必要なものを考えながら、また意見をまとめながらの行動はよい経験になったと思う。ゴミを拾いながら山を登り、途中生き物を観察するなど自然環境に触れるとともに、郷土愛を育むきっかけとなった。自治会の方々と、世代間交流を図ることができ子どもたちもとても楽しんでいた。



但馬ブロック

養父市〔馬瀬子ども会〕 防災キャンプ、地藏盆(6/30、7/23)95名

自然体験、社会参加、リーダー養成、世代間・地域間交流 (馬瀬交流センター・清養寺)

薪での火起こしや飯盒炊爨など、日常にはない貴重な体験ができた。また防災士から避難時の注意点などみんなで一緒に学び、防災の意識向上に役立つ機会となった。地藏盆では、地域の高齢化などにより、大人の参加者が年々少なくなる中、子どもたちが積極的に盆踊りや花火に参加することで、地域愛を育む一助になったと感じている。



淡路市〔里子ども会〕 かなぐちなつまつり(8/17)30名

淡路ブロック

世代間・地域間交流 (里会館)

高学年の子どもが少ない中、たくさんのゲームの準備や飾りつけなど、みんなで協力して取り組んでいた。子ども会だけでなく町内会の方々と共同で運営したり、地域の大人と一緒に唐揚げやそうめんを作るなど、地域での世代間交流の場となり、子どもたちも楽しそうだった。ただ、猛暑の中の活動は、実施時間帯など制限が多く、今後検討が必要だと感じた。





兵庫県立人と自然の博物館は、三田市にある「人と自然の共生」をテーマとした自然史系の博物館です。1992年（平成4年）に設立され、通称「ひととく」と呼ばれています。国内の公立博物館では最大級の規模で、展示等が配置されている「本館」、「研究・収蔵庫棟」、「ジーンバンク施設」、「恐竜ラボ」、「エントランスホール」、「ホロンピアホール」、新収蔵庫棟「コレクションナリウム」から構成されています。



新着トピックス



兵庫県丹波篠山市に分布する篠山層群大山下層（約1億1000万年前）から発見された植物食恐竜（角竜類）化石を新属新種「ササヤマグノームス・サエグサイ」と命名しました。



兵庫県丹波篠山市の白亜紀前期（約1億1000万年前）の地層から発見された恐竜化石を新属新種として「ヒプノヴェナトル・マツバラエトオオエオルム」と命名しました。



現在、世界中には50,000種を超えるクモが知られています。身近な存在だけど、意外とよく知らないクモの様々な不思議を紹介していきます。



イベント案内

詳しくは、ホームページをご確認ください。

イベントスケジュール

ひととくでは毎日イベントが盛りだくさん。事前予約が必要なものもあるので、ご確認ください。

ひととくセミナー

事前予約制

お子さまから大人、専門家向けまで、年間200以上の多様な講座をご用意しています。

Kids (キッズ) サンデー

毎月第1日曜日開催

小さな子どもたちも博物館で楽しめるプログラムをたくさんご用意しています。

開館時間 10:00～17:00（入館は16:30まで）

休館日 月曜日（祝日の場合は、その翌日）、年末年始（12/28～1/4）

観覧料 大人200円、大学生150円、70歳以上100円、高校生以下無料

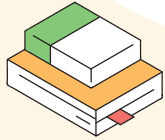
〒669-1546

兵庫県三田市弥生が丘6丁目

TEL: 079-559-2001（代表）

<https://www.hitohaku.jp/>





兵庫県立図書館だより

開館50周年を迎えて

兵庫県立図書館（以下「県立図書館」）は、昭和49年10月1日に、同じ時期に建設を計画していた旧明石市立図書館に隣接する形で県立明石公園内に開館し、今年で50周年を迎えました。

住民の皆様に図書を貸出す旧明石市立図書館が近いということもあり、当初、県立図書館は、県下の図書館をサポートする「図書館の図書館」としてスタートし、図書の貸出しも県下の図書館を通じて行っていました。その後、時代の変化や利用者の皆様からのニーズに応え、平成13年11月から県民の皆様への「直接貸出し」を実施し、今日に至っています。

スタートが「図書館の図書館」であったこともあり、県立図書館の蔵書には、市町立図書館などで収蔵しにくい専門書や学術書が多く、小説やエッセイ、趣味の本などは、あまり多くないという特徴があります。また、この特徴から、県立図書館は、県民の皆様が詳しい調査研究をしたり、市町立図書館を利用した後、更に調査研究を行う場合など、県民の皆様が行う調査研究活動のバックアップという役割を果たしてきました。

このような県立図書館ですが、開館から50年間で、利用者数は約485万人、貸出冊数は約177万冊、県民の皆様からの求めに応じて調査研究活動を支援するレファレンスが約85万回となっており、阪神・淡路大震災、新型コロナウイルス感染症などの不測の事態や、耐震工事、システム更新による休館もありましたが、県民の皆様のご読書や研究調査活動を支援するという役割を、日々果たして来られたのではないかと考えています。

しかしながら、県立図書館のサービスは、立地する東播磨地域や、近接する神戸地域の皆様のご利用が多く、離れた地域の皆様のご利用が相対的に少ないという課題もあります。県立の施設として、県下のいずれの地域の皆様にも、県立図書館が身近なものとなるよう、「WEBでの利用登録」や「電子書籍の導入」など、県立図書館に来館しなくても様々なサービスが利用可能となる環境の整備を、更に進めていく必要があると考えています。

県立図書館が、より県民の皆様にご親しんでいただける施設となるよう、これからも引き続き取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

読書の楽しさ

皆さん、「読書の秋」となりました。ところで、なぜ「読書」と言えば「秋」なのでしょう。どうやら、中国は唐の時代の詩人が詠んだ「秋で涼しくなり、夜の灯りにも親しめるようになったので、これからは書物を読むこともできる」という意味の漢詩を、夏目漱石が小説「三四郎」の中で取り上げたことで、「読書」は「秋」というイメージが広がったという説が有力のようです。個人的には、別に秋でなくても「読書は楽しい」と思いますが。

さて、ではなぜ「読書は楽しい」なのでしょう。様々ご意見があり、どれも正解だと思いますが、今回は、思い当たるいくつかについて書きたいと思います。

一つ目は「自分で本の世界を創る楽しさ」があることです。

映画やドラマ、漫画、アニメなどは、登場人物の表情やしぐさ、場面、場面の情景など、誰もが同じ「画」を観ます。一方で、「本」の情報は基本的に「文字」だけです。「文字」の情報を基に、読者が自分の頭の中で「画」をイメージして「本の世界」を創るので、まさに十人十色のできあがりになります。同じ小説を題材にした映画やドラマ等が複数あれば、すべて違う趣の作品になるのは、そういうことなのだろうと思います。「何かを創る」ことにはワクワク感があります。「読書」には、「文字」から「画」をイメージして「本の世界を創る」という一連の営みがあり、これが「読書は楽しい」理由の一つではないかと思っています。

そうすると、絵本は「絵」が「画」の情報として提供されているので、「本を読む楽しさ」はないのでしょうか。そうではないと思います。絵本を読む小さな子ども達は、まだ、自分

を取り巻いている世界についての知識が大人ほど多くないので、「文字」から「画」をイメージして「本の世界を創る」というプロセスに馴染んでいないと思います。あらかじめ「絵」が「画」の情報として提供される絵本を読むことを通して、このプロセスを身につけていくのだと思います。「何かができるようになる」ということも「楽しい」ことです。

次に思いつくことは「知らない事を知る楽しさ」です。

「本」は世界中で多数出版されており、そこに記された情報量は膨大なもので、自分の「知らない事」が山のようにあります。自分の「知らない事」を、「本」を「読む」ことで「知る」ことが、読書の楽しみの一つだと思います。これは小さな子どもたちも同じで、「文字」と「絵」を結びつけて絵本を「読む」ことで、自分を取り巻いている世界を知っていくことになるのだと思います。

こう書くと、「映像などでも知らない事を知ることはいける」というご意見も、あると思いますし、それは正しいと思います。しかしながら、「本」は、映像などよりも、はるかに古い時代まで「時間」を遡ることができます。今年の大河ドラマ「光る君へ」の舞台は平安時代で、当時書かれた「源氏物語」や「枕草子」が登場しますが、こうした古い書物を、「時間」を越えて令和の時代に「読む」ことで、当時を「知る」ことができるのです。「時間」の面で、「本」は、「知る」ことができる内容が圧倒的に多いと思います。「知らない事を知る」ことはワクワクします。これも「読書は楽しい」理由の一つだと思います。

いろいろ書きましたが、皆さん「読書の秋」です。秋の夜長、ぜひ読書を楽しんでいただければと思います。

トライやる・ウィーク

6月4日から7日の4日間に
明石市立中学校に通う生徒6名
をトライやる・ウィーク生として
受け入れました。

期間中には本のブッカーをかけ
る作業やカウンター業務を体
験してもらいました。また、トラ
イやる・ウィーク生による特別展示「パリオリンピックまであと
2ヶ月!! 未来へつなぐ料理のバトン〜世界の名物料理〜」の
テーマの設定やタイトルの決定、選書やレイアウトまでをトラ
イやるウィーク生がすべて行い、素敵な展示を始めることがで
きました。

トライやる・ウィーク生たちも図書館の利用者側からは見え
ない、裏側の仕事も体験することで、様々なことを知ること
ができて良かったと満足そうに話していました。



県庁インターンシップ

8月28、29日の2日間、
県立高校に通う生徒4名
を県庁インターンシップ
生として受け入れました。
ブッカー体験や雑誌の配
架、生徒が企画から選書
した展示『10月4日は世
界動物の日「ニャンてワン
ダフルな生き様紹介!〜その物語にウルッフと来
ちゃうピヨ〜」』は、推し動物でストレス社会に癒
しをテーマに作りました。また館長と若手職員との
懇談もあり、仕事の進め方などの話を生徒たちは、
目を輝かせて聞いていました。今回の経験が、将
来を考えるきっかけや貴重な人生経験になれば幸
いです。



あそぼう夏祭り

8月17日に普段、県立図書館を利用する機会のなかった子どもたちや図書館を改め
て利用したいという方のきっかけづくりとして「図書館夏祭り」を実施しました。イベン
ト内容はメダカのコタロー劇団による環境学習ステージや県立人と自然の博物館から
移動博物館車「ゆめはく」を呼び、昆虫標本の展示、ヘラクレスオオカブトなど珍しい
昆虫とのふれあい、県立加古川東高校生による自作絵本の読み聞かせを行いました。

今年は県立図書館開館50周年を記念して、キッチンカーを招聘し、わたあめやスー
パーボールすくいの屋台体験も行いました。

当日は1,000人以上の方にお越しいただき、大盛況でした。



おすすめの本



『ずーっとずっとだいすきだよ』

作・絵 ハンス・ウィルヘルム

小学校1年生の国語の教科書にも載っている
お話なので知っている方も多いと思います。
犬のエルフィーと主人公のぼくは一緒に大き
くなりました。でもエルフィーの方がずっと早
く歳をとります。ある朝、目が覚めるとエル
フィーが…。人間にも動物にも必ず死は訪れ
ます。生きている間に「大好きだよ」と伝える
ことの大切さを再認識させられます。親子で
一緒に読んで、意見交換する本としていかが
でしょうか。心温まる1冊です。

昨今、テレビやSNS等の様々な情報メディアの発達・普及や
子どもの生活環境の変化、更には、幼児期からの読書習慣の
未形成などにより、子どもの「読書離れ」が指摘されています。

読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、
創造力を豊かなものにするのに役立ちます。本から学べることは
無限大。わが子も本好きになって、楽しくたくさん学んでほしい
と願う方も多いのではないのでしょうか。

ゲームのように映像を瞬時に認識したり、わからないことは
すぐ検索し考えることなく答えがわかってしまう…幼い頃から
このような環境で育つ子どもたちですが、朝の読み聞かせ体験
や、お出掛けの時に本を持ち歩く習慣、また面白そうな本が
たくさん並ぶ図書館に連れて行ってあげるなど、ちょっとした
工夫で読書の楽しさを伝えることができるかも知れません。

兵庫県子ども会連合会では、人生をより深く生きる力が身に
つく、子どもたちの読書体験を推進しています。

開館時間 9:30~18:00

休館日 毎週月曜日・毎月第3木曜日・年末年始(12月29日~1月3日)
特別整理期間(6月頃1週間程度)

アクセス JR明石駅、山陽明石駅で下車、北へ800メートル(明石公園内)
当館に専用駐車場はありません。お車でお越しの際は、公園内または
近隣にある有料駐車場をご利用ください。

ホームページ

Facebook

X(旧:Twitter)

Instagram



兵庫県子ども会連合会

公式アプリはじめました！



最新情報を

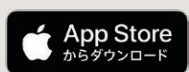
いつでもどこでも

あなたのスマホに！

ダウンロードしたら、
プロフィールを入力！

プロフィールを入力し、位置情報と
プッシュ通知をONにすると、あなたに
ぴったりのお得な情報が届きます。

アプリダウンロードはこちら ▶



QRコードよりiPhone/Android 共通でダウンロードできます。



ホームページ ▶



Facebook ▶



Instagram ▶



子どもeye

ふと薫る金木犀に、ようやく秋の訪れを感じられるようになりました。今年の夏は殊更暑く、何と長かったことか。とはいえずいぶん夜が長くなり、あっという間に街はクリスマス・イルミネーションで輝き出すことでしょう。毎年繰り返される風景が「当たり前ではない」と痛感するのが自然災害

です。あまりにも突然に奪われる日常。大きな地震と土砂崩れに見舞われた能登半島の被災者の方々を思うと胸が詰まります。物理的な復興だけでなく、心のケアも大切です。一日も早く、また子どもたちの笑顔があふれる街に戻ることを願って「育成会ノートvol.117」をお届けします。